

男女共同参画に関する市民アンケート報告書

【概要版】

平成 23 年 7 月に市民のみなさまのご理解とご協力のもとで実施しました「男女共同参画に関する市民アンケート」の調査結果がまとまりました。

この調査は、現行の「高崎市第 2 次男女共同参画計画」（計画期間：平成 20 年度～24 年度）の計画期間終了を前に、新たな計画を策定するための基礎資料として利用するために実施したものです。

✿ 調査の概要

調査名称	男女共同参画に関する市民アンケート
調査対象	住民基本台帳から無作為に抽出した満 20 歳以上の高崎市民 6,000 人
調査期間	平成 23 年 7 月 4 日～7 月 19 日
有効回収数	2,416 人（有効回収率 40.3%）
回答者の性別	女性 56.5%、男性 42.1%（性別不明 1.4%）

✿ 調査結果【概要】

※ グラフ内の N の表記は回答者数を示します。また、「前回調査」とは「男女共同参画に関する市民アンケート調査」（平成 18 年度）を示します。

※ グラフ内の回答率（%）は、小数第 2 位を四捨五入したため、合計が 100%にならない場合があります。

生活・社会における男女の平等について

以下の場面で男女の地位は平等になっていると思いますか

● 平等感が高いのは「学校教育の場」

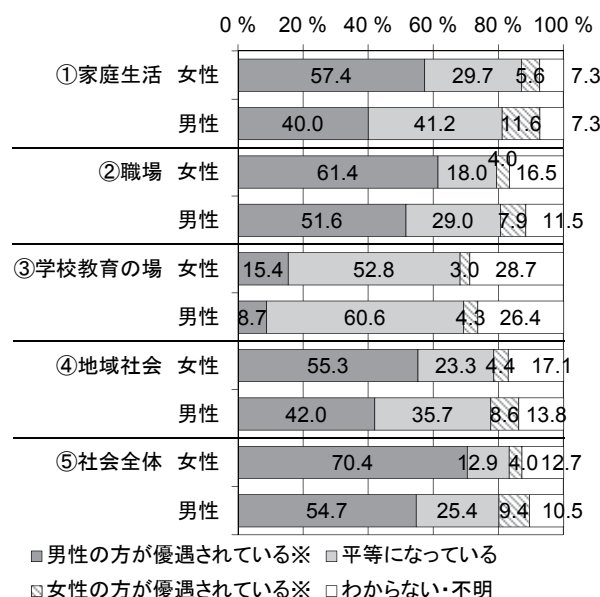
● 男性は女性よりも平等と思う傾向が強い

男女とも「平等になっている」が最も高いのは「③学校教育の場」（女性 52.8%、男性 60.6%）です。

一方、「②職場」や「⑤社会全体」では、「男性の方が優遇されている※」が特に高くなっています。

また、様々な場面で、男性が「平等になっている」と思うほどには、女性は思っておらず、女性は「男性の方が優遇されている※」と認識している傾向が見られます。

※「男性（女性）の方が優遇されている」は、「男性（女性）の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性（女性）の方が優遇されている」の合計値



N=女性 1,365 人、男性 1,018 人（性別不明を除く）

結婚・家庭について

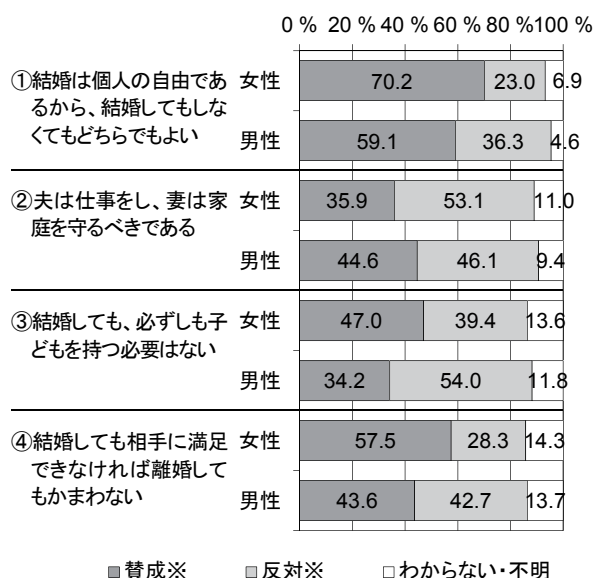
結婚・家庭等について以下をどのように考えますか

- 「結婚は個人の自由」は賛成が高い
- 「夫は仕事・妻は家庭」「結婚しても子どもを持つ必要はない」は男女で賛否が分かれる

「①結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい」は、男女とも「賛成※」（女性 70.2%、男性 59.1%）が高くなっています。また、「④結婚しても相手に満足できなければ離婚してもかまわない」も「賛成※」（女性 57.5%、男性 43.6%）が「反対※」（女性 28.3%、男性 42.7%）より高くなっています。

一方、「②夫は仕事をし、妻は家庭を守るべきである」や「③結婚しても、必ずしも子どもを持つ必要はない」は男女で賛否が分かれる傾向が見られます。

また、「②夫は仕事をし、妻は家庭を守るべきである」は、男女とも前回調査より「反対※」が増加しています。



※「賛成（反対）」は、「賛成（反対）」と「どちらかといえば賛成（反対）」の合計値

N=女性 1,365 人、男性 1,018 人（性別不明を除く）

さらに詳しく見ると

「②夫は仕事をし、妻は家庭を守るべきである」や「③結婚しても、必ずしも子どもを持つ必要はない」は、性別だけでなく、年齢や職業などでも賛否が分かれる傾向が見られます。

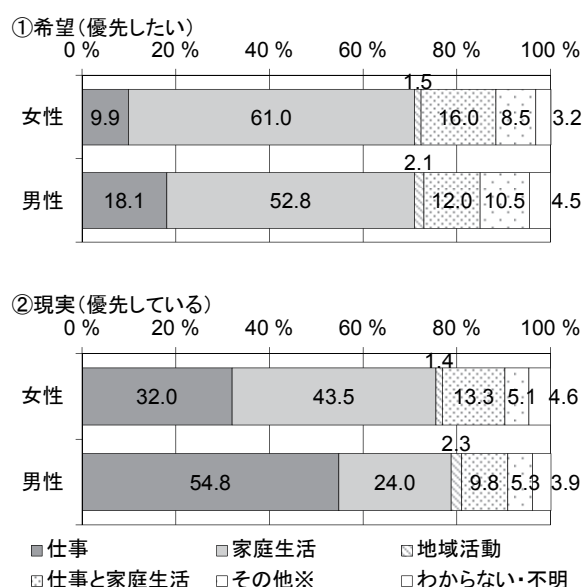
生活の中での優先度について

「仕事」「家庭生活」「地域活動」で優先したい・しているのはどれですか（複数回答可）

- 希望は男女とも「家庭生活」を優先
- 現実には女性「家庭生活」、男性「仕事」を優先

①希望（優先したい）は、男女とも「家庭生活」（女性 61.0%、男性 52.8%）が最も高く、次いで女性は「仕事と家庭生活」（16.0%）、男性は「仕事」（18.1%）が高くなっています。

一方、②現実（優先している）は、女性では「家庭生活」（43.5%）、男性では「仕事」（54.8%）が最も高く、次いで女性は「仕事」（32.0%）、男性は「家庭生活」（24.0%）が高くなっています。



※「その他」は「仕事と地域活動」「家庭生活と地域活動」「仕事と家庭生活と地域活動」の合計値

N=女性 1,365 人、男性 1,018 人（性別不明を除く）

家庭における役割分担について

あなたの家庭では以下の役割はだれが担っていますか
(結婚・事実婚をしている方のみ)

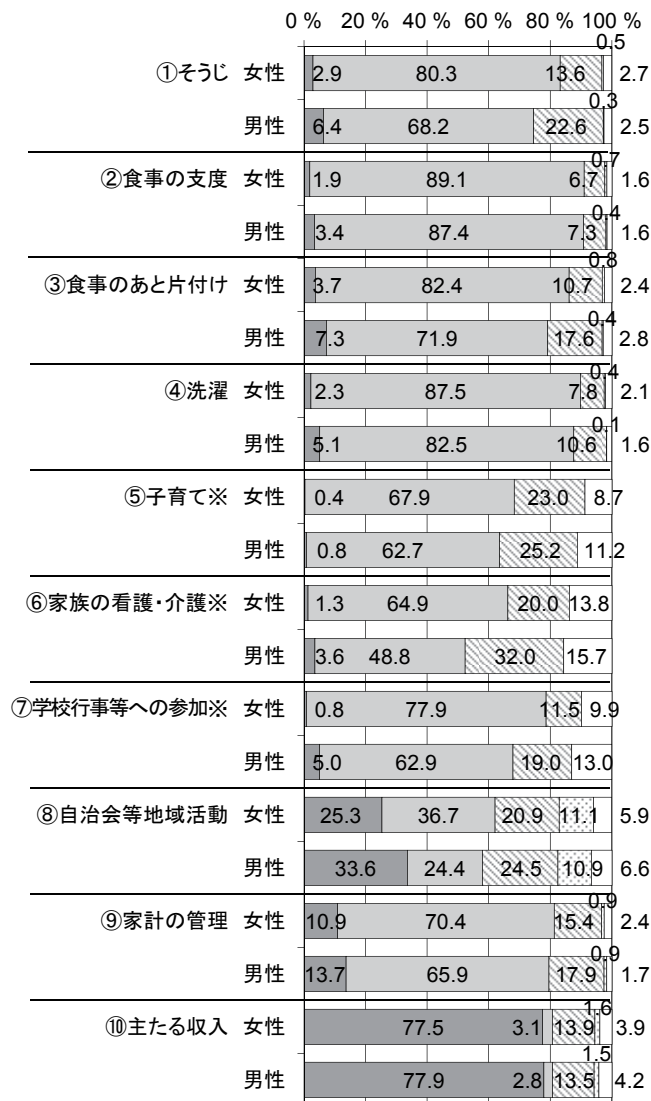
- ほとんどの役割を「妻」が担っている
- 「主たる収入」のみ「夫」が担っている
- 「子育て」「家族の看護・介護」「地域活動」は「夫婦同じくらい」が比較的高い

「⑩主たる収入」を除くほとんどの項目で男女とも「妻」が最も高くなっています。

「⑩主たる収入」は男女とも「夫」(女性 77.5%、男性 77.9%) が最も高くなっています。

また、「⑧自治会等の地域活動」は、女性では「妻」(36.7%)、男性では「夫」(33.6%) が最も高く、次いで女性は「夫」(25.3%)、男性は「妻」(24.4%) と「夫婦同じくらい」(24.5%) が同程度になっています。

一方、「⑤子育て※」や「⑥家族の看護・介護※」は、男女とも「夫婦同じくらい」(「⑤子育て※」女性 23.0%、男性 25.2%、「⑥家族の看護・介護※」女性 20.0%、男性 32.0%) が比較的高くなっていますが、男女とも「夫」(「⑤子育て※」女性 0.4%、男性 0.8%、「⑥家族の看護・介護※」女性 1.3%、男性 3.6%) はほとんど見られません。



※「⑤子育て」(N=女性 848 人、男性 606 人)、「⑥家族の看護・介護」(N=女性 616 人、男性 447 人)、「⑦学校行事等への参加」(N=女性 759 人、男性 536 人)は、家族に該当者がいない場合が考えられるため、「あてはまらない」を除外して集計

■夫 ■妻 ■夫婦同じくらい ■あてはまらない □その他・不明

N=女性 1,054 人、男性 783 人 (性別不明を除く)

さらに詳しく見ると

同居している家族の介護について見ると、「介護を受けている同居家族はいない」が男女とも 8 割以上を占めています。一方、「同居家族の中に介護を受けている人がいる」場合、主に介護を担っている人は、男女とも「配偶者」「施設介護サービス」が比較的高く、女性では「娘」も比較的高く見られます。

家事等や仕事にあなたは平日どのくらい時間を費やしていますか

●家事等は女性の約7割が「2時間以上」、男性の約8割が「2時間未満」

●仕事は女性の約6割が「8時間未満」、男性の約8割が「8時間以上」

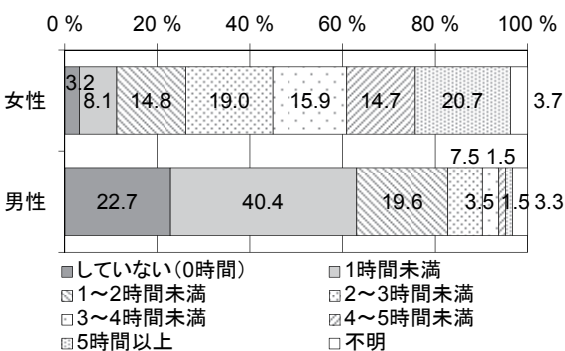
①家事（買い物を含む）や子育て、介護等について、女性は「5時間以上」（20.7%）、「2～3時間未満」（19.0%）が比較的高く、これらを含む「2時間以上」（70.3%）が約7割を占めています。

男性は「1時間未満」（40.4%）が最も高く、次いで「していない（0時間）」（22.7%）、「1～2時間未満」（19.6%）が比較的高く、これらを含む「2時間未満」（82.7%）が約8割を占めています。

②仕事（通勤を含む）について、男女とも「8～10時間未満」（女性27.2%、男性36.2%）が最も高くなっています。女性は「4～6時間未満」（23.0%）や「6～8時間未満」（22.9%）なども比較的高く、これら「8時間未満」（57.3%）が約6割を占めています。

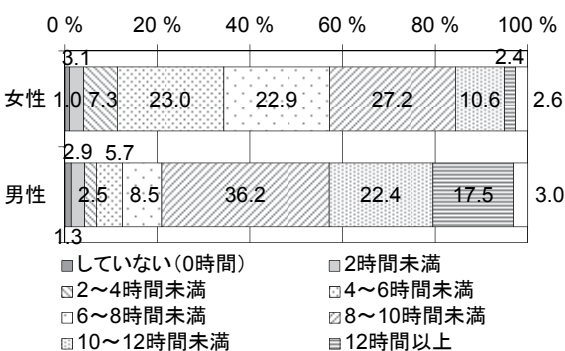
男性は「10～12時間未満」（22.4%）や「12時間以上」（17.5%）なども比較的高く、これら「8時間以上」（76.1%）が約8割を占めています。

①家事（買い物を含む）や子育て、介護等



N=女性 1,365 人、男性 1,018 人（性別不明を除く）

②仕事（通勤を含む）



N=女性 717 人、男性 755 人
 （性別不明、専業主婦・主夫、学生、無職を除く）

家族の育児・介護について

育児や介護が必要な家族がいる場合、育児・介護休業の取得等について、どのようにしたいと考えますか（現在勤めている方のみ・複数回答可）

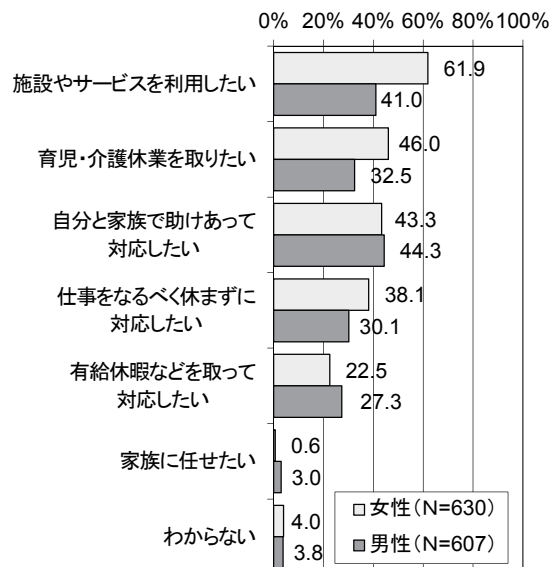
●女性は「施設やサービスを利用したい」

●男性は「家族と助けあって対応したい」

女性は「保育所や訪問介護、特別養護老人ホームなどの施設やサービスを利用したい」（以下「施設やサービスを利用したい」61.9%）が最も高く、6割以上となっています。

また、「育児休業や介護休業を取りたい」（46.0%）や「仕事をなるべく休まずに短時間勤務や時差出勤、在宅勤務などで対応したい」（38.1%）も比較的高くなっています。

男性は「自分と家族で助けあって対応したい」（44.3%）と「施設やサービスを利用したい」（41.0%）が同程度に高くなっています。



女性の就労について

一般的に女性が仕事を続けることについて、どのように考えますか

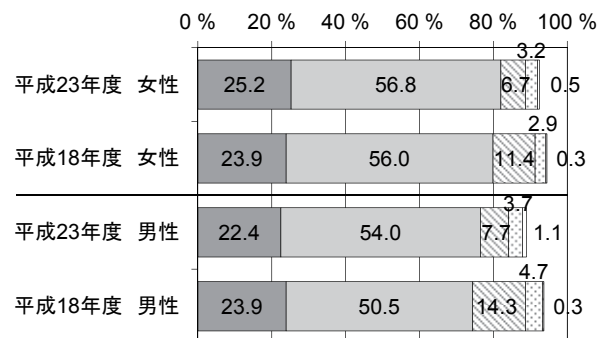
- 男女とも「子どもが大きくなったら再び仕事をする方がよい」が最も高い
- 前回調査から大きな変化がない

男女とも「子どもが小さい間は仕事をやめて、大きくなったら再び仕事をする方がよい」（女性 56.8%、男性 54.0%）が最も高く、次いで「結婚・出産にかかわらず、ずっと仕事を続けるのがよい」（女性 25.2%、男性 22.4%）が高くなっています。

前回調査とは選択肢の設定が若干異なりますが※、男女とも大きな変化は見られません。

※各調査の選択肢とグラフでの対応

平成 23 年度	平成 18 年度
結婚・出産にかかわらず、ずっと仕事を続けるのがよい	結婚して子どもができて、職業を持ち続けるのがよい
子どもが小さい間は仕事をやめて、大きくなったら再び仕事をする方がよい	子どもが生まれたらいったん職を辞め、子どもが成長したら再び職業に就くのがよい
子どもができるまでは、仕事を続けるのがよい	子どもが生まれるまでは職業に就き、子どもが生まれたら家事や育児に専念するのがよい
結婚するまでは、仕事を続けるのがよい	結婚するまでは職業に就き、結婚したら家事に専念するのがよい
女性は仕事に就かない方がよい	女性は仕事に就かず、習い事などに専念するのがよい



- 結婚・出産にかかわらず、ずっと仕事を続けるのがよい
- 子どもが小さい間は仕事をやめて、大きくなったら再び仕事をする方がよい
- ▨ 子どもができるまでは、仕事を続けるのがよい
- ▩ 結婚するまでは、仕事を続けるのがよい
- ▧ 女性は仕事に就かない方がよい

平成 23 年度 N=女性 1,365 人、男性 1,018 人（性別不明を除く）
平成 18 年度 N=女性 1,383 人、男性 1,002 人（性別不明を除く）

※「平成 23 年度」の選択肢「わからない」、「平成 18 年度」の選択肢「その他」は表示していません。

あなたの職場では以下のことがありましたか (現在勤めている方のみ・複数回答可)

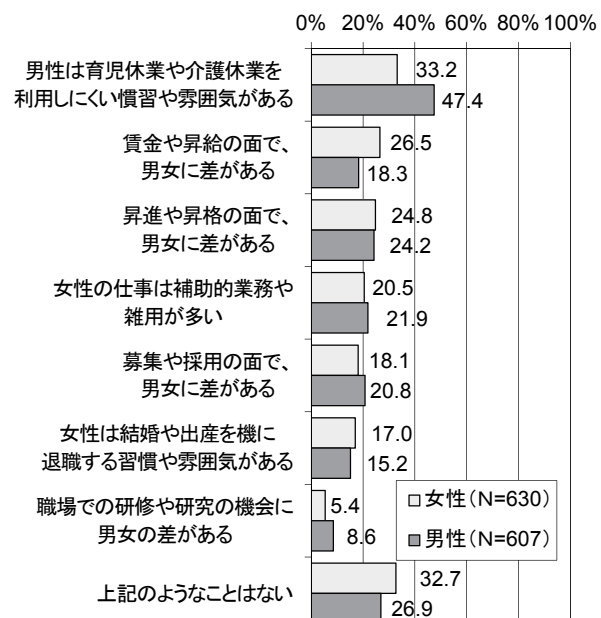
- 「男性の育児・介護休業」が利用しにくい
- 女性は「賃金や昇給の面で男女差がある」が比較的高い

男女とも「男性は育児休業や介護休業を利用しにくい慣習や雰囲気がある」（女性 33.2%、男性 47.4%）が最も高く、特に男性で高くなっています。

また、女性は「上記のようなことはない」（32.7%）や「賃金や昇給の面で、男女に差がある」（26.5%）も比較的高くなっています。

さらに詳しく見ると

常勤女性や、自分だけが働いている既婚女性では、「賃金や昇給の面で、男女に差がある」や「昇進や昇格の面で、男女に差がある」が約 3 割見られます。



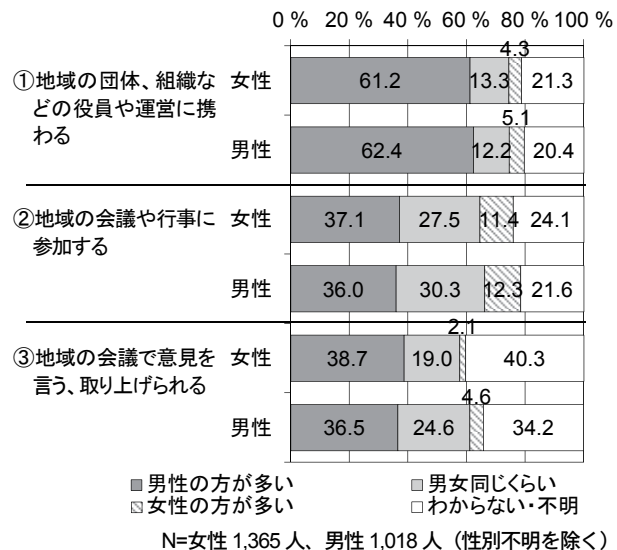
地域活動について

あなたがお住まいの地域では、以下のことについて、男女どちらが多いと思いますか

- 「会議や行事に参加」「会議で意見を言う、取り上げられる」は「男性」だけでなく「男女同じくらい」が比較的高い
- 「役員や運営に携わる」は男性が多い

男女とも「②地域の会議や行事に参加する」や「③地域の会議で意見を言う、取り上げられる」では、「男女同じくらい」が2～3割程度見られます。

しかし、「①地域の団体、組織などの役員や運営に携わる」という、地域でより責任ある役割を担うような場面では「男性の方が多い」が6割以上となっています。



ドメスティック・バイオレンス (DV) について

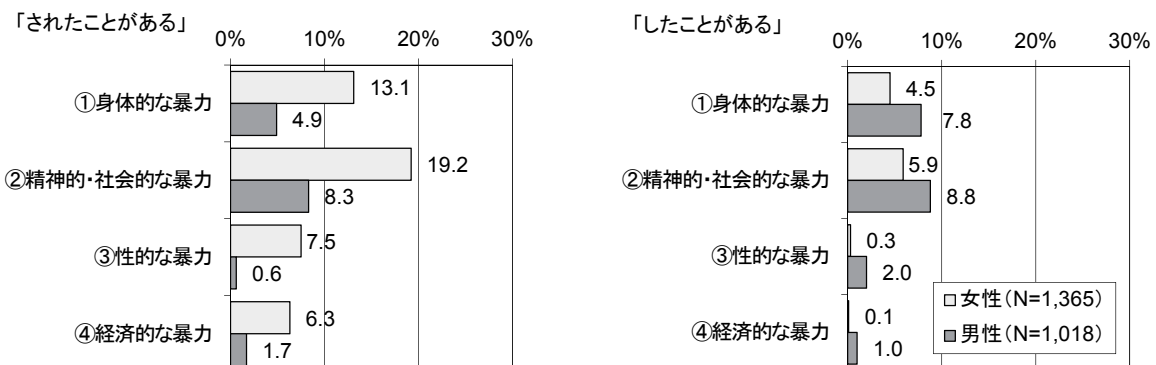
①あなたはこれまでに恋人やパートナーから、以下のことを「されたこと」や、もしくは「したこと」がありますか

- 「されたことがある」は女性、「したことがある」は男性が比較的高い
- 特に女性は「身体的暴力」「精神的・社会的暴力」を「されたことがある」が比較的高い

4項目※すべてにおいて「されたことがある」は女性、「したことがある」は男性が比較的高くなっています。特に女性は「②精神的な暴力・社会的な暴力」や「①身体的な暴力」を「されたことがある」（それぞれ19.2%、13.1%）が高くなっています。

さらに詳しく見ると

4種類のうち1種類でも「されたことがある」（DV被害経験がある）女性は2割以上（24.7%）、男性は1割以上（10.5%）となっています。また、「以前結婚していたが、現在はしていない（離別・死別）」女性は、「されたことがある」が特に高い傾向が見られます。



※①身体的な暴力…なぐる、ける、物を投げつける、つきとばす、刃物でおどす等
②精神的な暴力・社会的な暴力…人格を否定するような暴言、長時間の無視、どなる、「誰のおかげで生活できるんだ」や「かいしょうなし」等の見下した発言、身の危険を感じるような脅迫、交友関係の監視や制限等
③性的な暴力…相手がいやがっているのに性的な行為を強要する、避妊に協力しない、中絶の強要等
④経済的な暴力…生活費を入れない、外で働くことを妨害する、仕事を辞めさせる、家計の管理に関与させない、借金をさせてお金を取り上げる等

②「された」後、どこか（だれか）に相談しましたか（複数回答可）

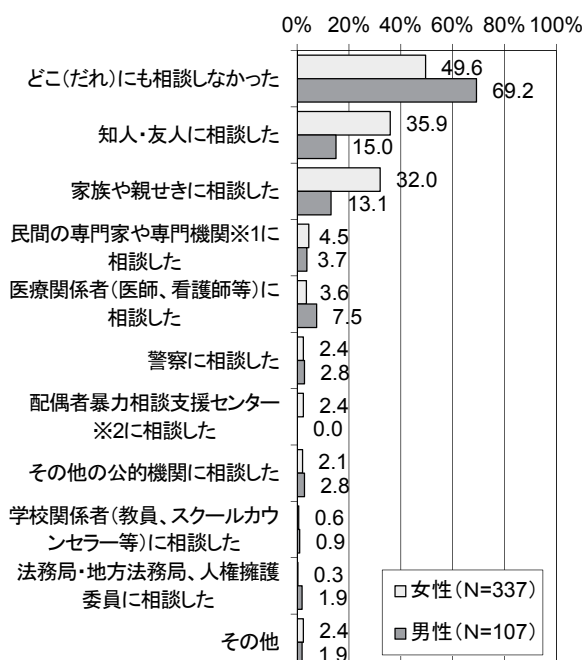
●男女とも「どこ（だれ）にも相談しなかった」が最も高い

男女とも「どこ（だれ）にも相談しなかった」（女性 49.6%、男性 69.2%）が最も高く、特に男性はこれを除いて高い項目は見られません。

女性はこれに次いで「知人・友人に相談した」（35.9%）、「家族や親せきに相談した」（32.0%）も比較的高くなっています。

✿ さらに詳しく見ると

「どこ（だれ）にも相談しなかった」理由（複数回答可）を見ると、男女とも「相談するほどのことではないと思った」が約5割で最も高く、次いで「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけるといった」「相談してもむだだと思った」が3割程度で比較的高くなっています。



※1 弁護士、カウンセラー、カウンセリング機関、民間シェルター等

※2 女性相談所、女性相談センター等

セクシャル・ハラスメント（性的ないやがらせ）について

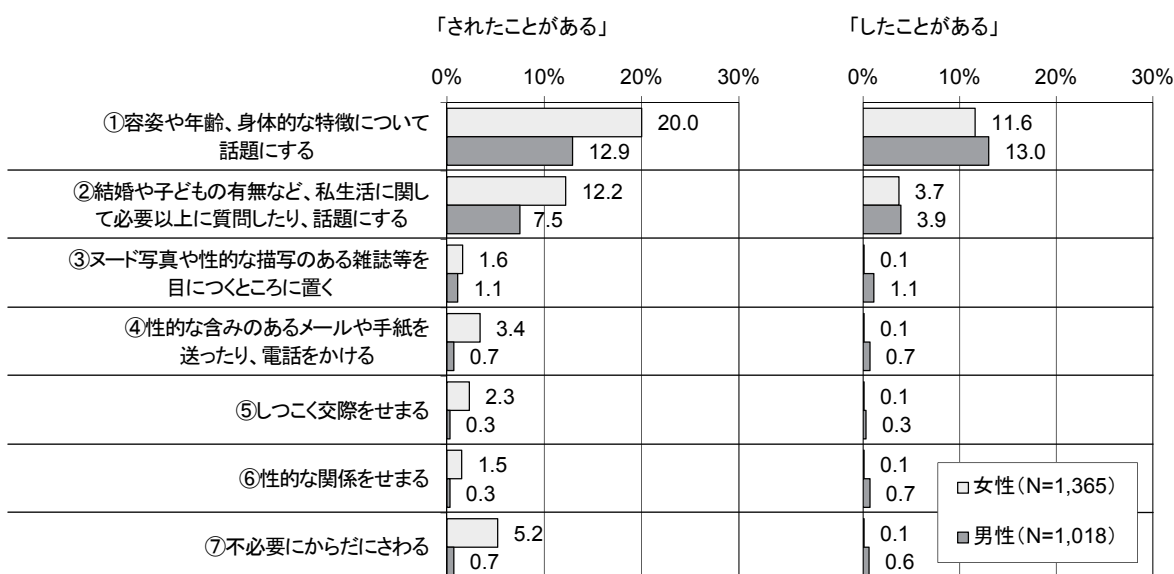
あなたは過去 3 年以内に、職場や学校、地域での活動の中で、以下のことを「されたこと」や「したこと」がありますか

●「されたことがある」は女性が比較的高い

●女性は約 2 割が「容姿や年齢、身体的特徴について話題にされたことがある」

7 項目すべてにおいて「されたことがある」は女性が比較的高くなっています。

また、「されたことがある」「したことがある」ともに「①容姿や年齢、身体的な特徴について話題にする」が高く、特に「されたことがある」は女性（20.0%）が約 2 割と高くなっています。



男女共同参画社会推進のための施策について

以下の言葉や制度のうち、見たり聞いたりしたものがありますか（複数回答可）

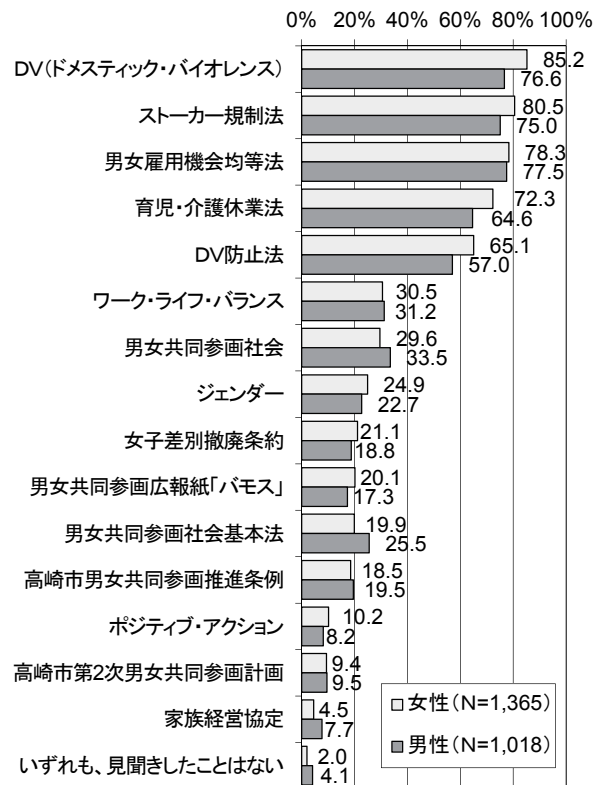
●DV、ストーカー規制法、男女雇用機会均等法は約 8 割が認知

男女とも「DV（ドメスティック・バイオレンス）」、「ストーカー規制法」、「男女雇用機会均等法」の3項目が約8割で高くなっています。

次いで「育児・介護休業法」、「DV防止法」も約6～7割で比較的高くなっています。また、上位5項目はいずれも女性が比較的高くなっています。

※実際の調査票では、以下の選択肢について、カッコ（ ）内に以下の説明文を加えて提示しました。

- ・ストーカー規制法（ストーカー行為等の規制等に関する法律）
- ・DV防止法（配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律）
- ・ワーク・ライフ・バランス（仕事と家庭の調和）
- ・ジェンダー（生物としての性別ではなく、社会通念や慣習の中で社会的に形成された性別のこと）
- ・男女共同参画広報紙「バモス（Vamos）」（高崎市が毎年3月に発行し、全戸に配布）
- ・高崎市男女共同参画推進条例（平成21年4月1日施行）
- ・ポジティブ・アクション（男女間の格差改善のため、男女のいずれか一方に対し、活動に参画する機会を積極的に提供すること）
- ・高崎市第2次男女共同参画計画（平成20年3月策定）
- ・家族経営協定（農業経営にたずさわる家族それぞれの経営参画を目指す、家族で取り決める協定のこと）



以下のような職業や役職について、今後女性が増える方がよいと思うものはどれですか（複数回答可）

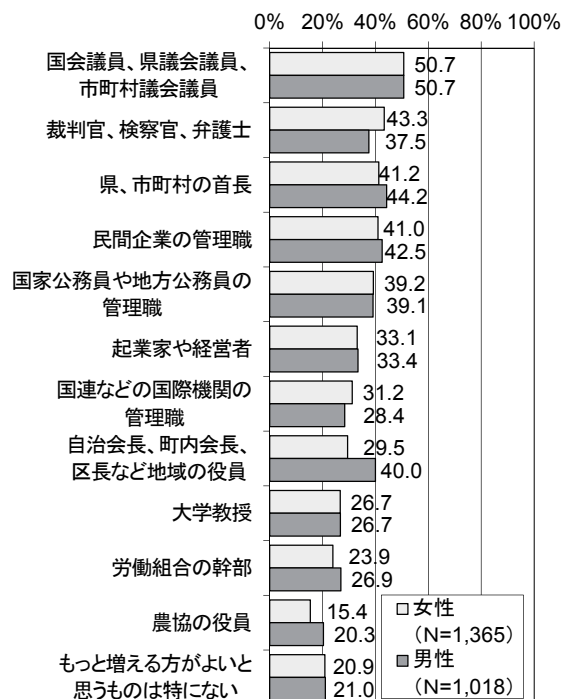
●国・県・市町村議会議員が最も高い

●「特にない」が約 2 割

男女とも「国会議員、県議会議員、市町村議会議員」（男女とも 50.7%）が約 5 割で最も高くなっています。

次いで女性は「裁判官、検察官、弁護士」（43.3%）、「県、市町村の首長」（41.2%）、「民間企業の管理職」（41.0%）、男性は「県、市町村の首長」（44.2%）、「民間企業の管理職」（42.5%）、「自治会長、町内会長、区長など地域の役員」（40.0%）が 4 割以上で比較的高くなっています。

また、男女とも「もっと増える方がよいと思うものは特にない」（女性 20.9%、男性 21.0%）が約 2 割見られます。



平成 24 年（2012 年）2 月

✿ 男女共同参画に関する市民アンケート報告書【概要版】

高崎市市民部人権男女共同参画課 〒370-8501 群馬県高崎市高松町 35 番地 1

電話 027-321-1228（直通）